行きはよいよい、帰りは？

「週末寸言」　050806

「通りゃんせ、通りゃんせ」で始まる江戸わらべ歌。最後に「行きはよいよい帰りは怖い、怖いながらも通りゃんせ」と唄う。何があって帰りが怖いのか、不可解な歌だ。この歌の来歴には諸説あるが、武蔵国（埼玉県）川越天神三芳野神社にまつわるわらべ歌が、江戸に伝わって広く庶民に歌われるようになったというのが定説らしい。

それはともかく、「行きはよいよい、帰りは怖い」と片方に向かって進む現象が、逆方向には異なった進み方をするもののことを、物理学では「非可逆性」という。他方、A点からB点にボールを投げた時と、逆にB点からA点に向かって投げた時とで全く同一軌道を飛ばせることができる。これは「行きはよいよい、帰りもよいよい」で、こういうのを「可逆性」という。この例では、BからAへの飛行は、AからBへの飛行の様子をTVカメラで撮影しておいて、それを逆回転して見せても嘘にはならない。

容器にためたきれいな水面のA点に一滴のインクを落とし、その瞬間からTVカメラで拡散の様子を撮影してみようと。すると、時間の経過と共にB点を含む広い範囲にインクの拡がっていくのが撮影されて、この映像を逆回転してみると、水の汚染がA点に収れんしながら最後に浄化されて終わるのを見ることになる。

しかし、実際にB点にインクを落としてみると、汚染はB点を中心に広がっていくだけで、今の映像とはまったく異なる。これは、典型的な非可逆現象で、熱拡散や環境汚染などはこれに属する。

モラルハザードの典型例のような一流橋梁メーカーの談合事件なども非可逆現象に入れてよい。また、功なり名を遂げた有名人が、セクハラ・パワハラ・収賄だのと晩節を汚して転落していくなどもこれに類する。どちらも、成長期には、世間の羨望を一身に集めながら成長する。だが、一旦転落が始まると「昔を今になす由もがな」。動画映像を逆回転させて、あの穢れなき昔に帰るというわけにはいかない。

こういう企業では、成長期に豪華な本社社屋を建てたり、過剰な投資をしたりした。一転して収縮期になって、それらの維持管理に資源が吸い取られて困窮する。個人でも、ちやほやされた放漫な過去が消化できない。まさに「行きはよいよい、帰りは怖い」。

中国唐王朝の繁栄の基礎を築いた太宗は、「創業は易く、守成は難し（事業を始めるのは簡単だが、それを維持するのは難しい）」と言って、自らを戒めたという。

行きに帰りの道筋の安全を確かめよと、童謡「通りゃんせ」は教えているらしい。